

7 ブリストール湾における鮭漁問題

1393

昭和12年6月9日
在シアトル岡本領事より
広田外務大臣宛(電報)

ブリストール湾における日本船の鮭漁に関する
米国側照会につき対応振り請訓

シアトル 6月9日午後
本省 6月10日前着

第四〇號

昨八日「ハースト」系P、I、紙主筆ヨリ日本漁船二十數(隻ハ)多數ノ小舟ト共ニ「ブリストール」灣沿岸附近ニ於テ鮭漁ニ従事シ居リ我數億ノ投資ト多數勞働者ノ職業ニ脅威ヲ與ヘツツアリ速ニ對策ヲ講セスンバ大ナル悔アルヘシMaritime Federationト協力日本渡來貨物ヲ「ボイコット」スヘシ云々ノ電報「アラスカ」Naknekヨリ到達セリ右ニ關シ何等知ル所ナキヤトノ問合アリ當館ハ「政府ニ於テ同方面鮭漁ヲ許可セシヲ聞カス右ハ恐ラク貴方トノ了解アル蟹漁船竝ニ例年派遣シ居ル調査船ヲ誤認セシモノナルヘシ」

ト答ヘ置ケリ次イテ本九日朝「パシフィック、フィシヤマン」ノ「フリーマン」ヨリ同様ノ電報ニ基キ特ニ日本漁船カ沿岸ニ近ク海底ニ達スル大網ニ依リ「フィツシユミール」乃至魚油製造業ヲモ脅威ストテ當業者大イニ憤激シ居リ昨八日夜P、I、紙主筆「ボテガー」(「ルーズベルト」大統領女婿)ト懇談シタル次第ナルカ不取敢日本側ノ意嚮ヲ求メタル上何分ノ措置ニ出ツヘキ旨話合ヒタリトテ事情問合ノ次第アリタリ何等回答スヘキ儀モアラハ御電示ヲ請フ米、桑港、「ポートルランド」、羅府、晚香坡へ暗送セリ

1394

昭和12年6月12日
在シアトル岡本領事宛(電報)

ブリストール湾における日本船出漁状況について

本省 6月12日午後6時10分發

第一八號

貴電第四〇號ニ關シ

左ノ點御含ミノ上可然應酬シ置カレ度

一、「ブリストル」近海ニテ本邦漁船カ鮭漁業ニ従事スルニハ農林大臣ノ許可ヲ必要トスルモノナル處未タ一隻モ之ヲ許可シ居ラス日本漁船二十數隻出漁ノ報ハ恐ラク目下「アラスカ」方面ニ蟹工船(母船東天丸三千八百噸附屬獨航船三搭載船一〇)及ヒ「フィツシユ、ミール」工船(母船大北丸八千二百噸附屬獨航船一三搭載船ナシ)ノ出漁セル事實ニ基クモノト想像セラルルモ蟹ニハ刺網(crawl nets)ヲ「ミール」ニハ底曳網(trawl nets)ヲ使用シ居リ鮭取ノ際用フヘキ流網(drift nets)トハ漁夫ナラハ一日瞭然區別シ得ヘキ次第ナルヲ以テ之ヲ鮭漁業ニ従事シ居レリト傳フルハ爲ニスル報道ニ非サレハ誤認ナリ

二、「フィツシユ、ミール」製造ニ關シテハ米國側ハ南太平洋ノ「サーディン」ヲ原料トシ年産額十五萬噸ニ達スルモ我工船(現在大北丸一隻ノミ)ハ「ブリストル」ノ鱈ヲ原料トシ年産額僅ニ四千噸ニ過キス即チ操業場、原料、生産額ノ何レヨリスルモ我方工船カ米國側ヲ脅威スル筈ナキ次第ナリ

三、鮭沖取ニ關スル農林省調査船ハ六月十五日頃「ブリスト

ル」近海ニ到達スル見込ナル處昨年來右調査ノ目的ハ同方面ニ於ケル鮭魚族資源ノ保存ヲ計リツツ公海資源ノ開發ノ途アリヤ否ヤヲ發見セントスルニ在リテ即チ我方トシテハ米國側ノ意向ヲ充分考慮シ將來共存共榮ノ立場ヲ執リタキ心組ヨリ調査ヲ進メ居レルモノナリ

米へ轉電シ桑港、「ポートランド」、羅府、晚香坡へ暗送アリ度



1395 昭和12年6月16日 在米國齋藤大使より 廣田外務大臣宛(電報)

ブリストル湾での日本船出漁に関する米國國務省のステートメントについて

ワシントン 6月16日後發
本 省 6月17日前着

第一八八號

往電第一七七號ニ關シ

十五日國務省ハ「アラスカ」方面ニ於ケル日本船出漁ニ關シ「ステートメント」ヲ公表セルカ其ノ要旨ハ異常ニ多數ノ日本船ノ「アラスカ」方面ヘノ出現ハ日本ノ「ブリスト

ル」灣鮭漁ヘノ大規模侵入ナルヲ惧ルトノ趣旨ノ太平洋岸及「アラスカ」方面米國漁業者ヨリノ大統領、上院議員等宛電報ニ關聯シ九日關係當局偵察ノ結果トシテ判明セル日本政府所屬船白鷹丸十一隻ノ Trawlers ヲ率ユルカイホク丸^(ママ)竝ニ八隻ノ「ランチ」及一隻ノ crab trap planter ヲ率ユルトウテン丸ノ所在ヲ夫々明記シ且外國漁船ニシテ米國領海内ニテ作業スルモノナク前記日本船モ其ノ規模及作業ノ性質ニ於テ從前ノモノト異ラサルコトヲ指摘シタル後本年ハ未タ鮭ノ遡行始マラサルノミナラス「プリストル」灣方面ノ日本船ハ蟹工船ナルヲ以テ鮭ノ遡行ヲ害セスト述ヘ本件ニ關シ曩ニ在日本米國大使館宛電照ノ結果日本外務省ヨリ「ペーリング」海鮭漁ニ付許可ノ與ヘラレタルコトナキ旨及問題ノ日本船ハ恐ラク蟹工船ナル旨ノ情報ニ接セリト說明シ最後ニ本件ニ關シテハ爾來國務省トシテモ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ル處今般本件事情調査ノ爲ニ週間内ニ省員ヲ漁獵局員ト共ニ太平洋岸及「アラスカ」方面ヘ派遣スルコトトナリタリト言フニアリ

「シアトル」ヘ郵送セリ

1396

昭和12年11月8日

在米國齋藤大使ヨリ
広田外務大臣宛(電報)

プリストル灣での日本船出漁に抗議して排日運動が発生したとの報道について

ワシントン 11月8日後発

本省 11月9日前着

第五八八號

七日桑港發ウ、P、ハ「アラスカ、フィシヤーマンズ、アソシエーション」(A・F・L系統)ハ「アラスカ」鮭漁業地ニ於ケル日本漁船ノ不法ナル行動ニ對シ抗議スル爲本月十五日ヨリ日本品ニ對スル「ボイコット」ヲ實施スヘキコトヲ指令シタル旨ヲ公表シタル趣ヲ報道シ居ル處之ニ關聯シ七日當地發U、P、ハ國務省ハ日米親善關係維持ノ見地ヨリ近ク日本政府ニ對シ「プリストル」灣其ノ他ノ「アラスカ」漁區ヨリ日本蟹船ニシテ鮭ノ漁獲ニ從事スル者ノ引揚方ヲ要請スヘキ旨及國務省方面ニ於テハ國際法上本件漁船ノ撤退ヲ要求スルノ方法ナキコトヲ指摘シ居ル旨報シ居レリ委細郵報

紐育、桑港、「シヤトル」ヘ轉電セリ

1397

昭和12年11月12日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

ブリストル湾で日本船が鮭漁に従事している

との誤解を一掃すべく米國國務省へ適當措置

方訓令

本省 11月12日午後10時30分發

第四〇一號

貴電第五八八號ニ關シ從來ノ經緯ニ鑑ミ國務省ガ日本漁船ノ引揚ヲ要求スルト云フガ如キコト在リ得ザル儀トハ思考セラルルモ沿岸各地領事ヨリノ電報ニヨルモ「ブリストル」灣問題ヲ對日「ボイコット」ト關聯セシメ恰モ現在モ尙ホ日本船ガ不法ニ「ブリストル」灣ニ侵入シ鮭漁ニ従事シ居ル如ク吹聽シ排日ノ口實トナシ居ルモノノ如キ處右ハ全然事實ニ非ルコト米國政府モ承知シ居ル通ナルヲ以テ十二日情報部長ヲシテ日本政府ハ「ブリストル」灣鮭漁ニ付許可ヲ與ヘタルコトナク唯漁期中農林省試験船太洋丸ガ同方面ニ赴キ昨年度ヨリノ調査ヲ繼續シタル次第アルモ右ニ付テハ米國政府ニ於テモ承知シ居ル處ナルガ同船ハ八月十七日既ニ函館ニ歸還シタルコト及蟹工船及「フィシユミール」

工船ガ屢々鮭漁ヲナシ居ル如ク誤解セラレタルコトアルモ蟹工船東天丸ハ八月八日函館ニ「フィシユミール」工船大北丸ハ九月廿二日小樽ニ夫々歸港シ居リ現在遙ニ漁期ヲ過ギ且寒氣甚シク且ツ荒天勝チナル「ブリストル」灣方面ニ日本漁船ノ留ルモノ皆無ナリト發表セシメ置キタリ就而ハ貴大使ヨリモ國務省ニ對シ貴電U、P、ノ記事等ヲ指摘シ此ノ如ク故意ニ民衆ニ誤解ヲ起サシメ排日感情ヲ唆ルガ如キハ時節柄面白カラザル次第ナルニ付適當ノ措置ヲ講ズル様可然申入レラレ度シ

尙ホ亞米利加局長ヨリ「ドウマン」參事官ニ口頭ヲ以テ本電發出ノ次第ヲ内話シ置キタル趣ナリ

本電晚香坡ヲ含ミ沿岸領事へ轉電アリ度シ
貴電必要ノ向へ郵送アリ度シ



1398

昭和12年11月17日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

ブリストル湾鮭漁問題に関し米國國務省が對

日覺書提出の意向について

付記 昭和十二年十一月二十二日付

右に関する米國覚書和訳文

ワシントン 11月17日午後

本省 11月18日前着

第六〇九號

貴電第四〇一號ニ關シ「プリストル」灣鮭漁ニ付誤解一掃方ノ件

十六日須磨ヲシテ國務省顧問「モアー」ヲ往訪（「セーヤー」「ウイルソン」同席）御來示ノ趣旨ヲ詳細説明セシメタル處本件ハ議會ニ於テ相當問題トサレ居ル事態ニモ鑑ミ政府トシテモ之ヲ重要視セサルヲ得ストテ實地調査ノ結果等ヲ披露シ數日中當國政府ヨリ「グルー」大使ヲ通シ日本政府ニ對シ右趣旨ヲ認メタル「ステートメント」（右ハ公表セス其ノ寫ハ總監ニ送付ノ筈）ヲ提出スヘキ旨ヲ述ヘタル趣ナリ

紐育、桑港、「シヤトル」へ轉電セリ

（付記）

米國大使館覺書（十一月二十二日附）（假譯）

覺書

一九三〇年ニ始マリ爾來毎年鮭漁獲期ニ於テ西部「アラスカ」ノ「プリストル」灣沿海ニハ浮動罐詰母船及ヒ小型發動汽船乃至「デイゼル」機關裝備ノ「トローラー」等各種形狀ノ補助船ヨリ成ル日本漁船隊出動シ居レリ、是等日本船ノ活動カ「ベ어링」海ニ棲息スル蟹ノ漁獲ニ局限セラレ居タル限りハ是等活動ハ米國政府ニ對シ何等懸念スベキ理由ヲ供セサリキ、然レ共最近「プリストル」灣ニ於テ作業中ノ日本漁船ハ鮭ノ漁獲ニ從事シ同海域及其他「アラスカ」海域ニ於ケル鮭資源ノ保護竝ニ永續化ノ問題ヲ惹起スルニ至レリトスルニ足ル例證累積スルニ至レリ

此ノ點ニ關聯シ次ノ如キ事件ノ推移ハ注目ニ値スル所ナリ、即チ一九三六年日本政府ハ「プリストル」灣ノ鮭資源ニ付キ三年間ノ漁業調査ヲ實施スヘキコトヲ聲明シタリ、右調査ノ内ノ二ハ既ニ終了シ居リ第三次調査ハ一九三八年ノ漁獲期ヲ通シ行ハル可シ、「プリストル」灣ニ於ケル漁業調査船ノ定期的出動ハ日本漁船隊ノ作業ト相俟チテ斯ル活動ノ目的ト其ノ重要性ニ關シ米國民衆ノ大部分ノ間ニ深キ懸念ヲ起サシメタリ

今ヤ「プリストル」灣ニ於テ作業中ノ日本漁船ハ是等海域

ニ於ケル鮭群ノ廻游ヲ阻止セントシツツアリトノ信賴ス可キ筋ヨリノ情報ハ益々枚擧ニ遑ナキニ至レリ、又斯ル情報ハ益々確實ニシテ信賴ス可キモノトナリツツアリ、最近ノ漁獲期ニ於テハ是等情報ノ適確性ハ明確ナル諸誓約書及問題トナレル漁獲作業ノ寫眞ニ依リテ立證セラレタリ

米國政府ハ日本政府ヨリ在東京米國大使館ニ對シ與ヘラレタル保證ニ依リテ日本漁船ハ「ブリストル」灣區域ニ於ケル鮭ノ漁獲ニ關スル免許狀ヲ與ヘラレ居ラサルコトヲ了解シ居レリ

然レドモ「アメリカ」政府ニ間斷ナク入手セラルル證據ハ日本國民ハ問題トナレル海域ニ於テ實際上堅實ナル規模ニ基キ鮭漁ヲ開始シタリトノ強キ懸念ヲ起サシムルモノアリ
 斯ル漁撈ハ日本政府ノ權限外ニ在リトノ事實ニヨルモ當該米國利害關係者ニ取り關心事タルノ程度ニ何等差異ヲ生セシムルモノニ非ラス「アラスカ」海域ニ於ケル斯カル漁撈ヲ日本人ガ繼續スルコトハ多數米國市民ノ職業乃至經濟的福祉ガ不可分のニ關聯シ居ルカ如キ鮭漁業ノ將來ニ關シテ不可避のニ米國利害關係者間ニ不安ヲ惹起セシムベシ、米國政府ハ更ニ若モ日本人ガ彼等ニ於テ使用シ得ル高度ニ發

達セル方法ヲ以テ無制限ナル漁撈ヲ持續スルニ於テハ不可避のニ發生スルコトアルベキ「アラスカ」鮭資源ノ枯渴ヲ考慮シ著シキ關心ヲ有セザルヲ得サル次第ナリ、此等ノ資源ハ元々米國政府ガ個人的利害關係者ト協力ヲ爲シ供給ノ蕃殖竝ニ永續性ヲ増進セシムルガ爲メニ採レル諸手段ニ依リ開發セラレ且保存セラレタルモノナリ。數年間ニ亘リ實行セラレタル此等ノ努力ナクンバ且ツ更ラニ資源保存ニ關スル政策ノ不斷ノ遂行ナカリセバ「アラスカ」鮭漁業ハ其ノ現在ノ發展過程ノ如キモノニハ到達セザリシナラントハ疑問ノ余地ナキ次第ナリ

「アラスカ」漁業保護ニ關スル米國議會制定ノ諸法律ハ特ニ鮭資源ノ永久保存ヲ規定シ徊游鮭群ノ少クトモ五十「パーセント」ノタメニ産卵ノ爲ノ逃口ヲ與フルヲ要スヘシト爲セリ。斯カル逃口ヲ確カナラシムル爲漁業法ハ一週間に閉鎖期間ヲ規定シ比較的大ナル「アラスカ」河流ヲ除キ一切ノ河流口ニ於ケル商業的鮭漁撈ヲ禁止セリ。商務長官ハ漁獲量制限ノ爲鮭漁ニ使用セラル可キ漁網、漁船及其他ノ裝具ノ形狀及性質ヲ決定シ且漁獲期間ノ長短ヲ統整スルノ權限ヲ附與セラレ居レリ實際上漁期ハ約一ヶ月ニ限ラレ、

漁撈器具ハ最モ簡單ナル種類ニ制限セラレタリ、然レ共「ペーリング」海漁業ニ従事スル日本人ハ漁期又ハ器具ニ關シ何等ノ制限ナキカ如クニ思ハル、是等資源ノ保存工作ノ影響スル所ハ「アラスカ」鮭漁獲ノ正常ナル生産ヲ維持スルコトノミナラス、近年ニ於ケル鮭罐詰ヲ同産業史上ニ於ケル最高水準ニ迄引上グルコトニ在リシナリ、保存工作ハ更ニ生物學的研究、養殖所並ニ監視設備ノ發展及ヒ是等活動遂行上ノ特別ナル機關ノ維持ヲモ包含スヘク、是等保存工作ノ爲過去十ヶ年間に亘リ米國政府ノ負擔シタル經費ハ平均毎年三十五萬八千弗ノ巨額ニ達シ居レリ

鮭漁統制及ヒ鮭魚供給ヲ永久化スルカ爲ニ米國政府ニヨリ行ハレタル廣汎ナル努力ニ要シタル經費ハ米國市民ニヨリ負擔セラレ、米國漁業者ニシテ各種制限ヲ蒙リタルカ爲ニ職業及ヒ收入ノ道ヲ失ヘタルコト屢々ナリ斯ル犠牲及鮭資源保存及永久化ニ要スル經費負擔ニツキ米國市民ノ與リタル貢獻アルカ故ニコソ一切ノ種類ノ鮭資源ニ關シ優位ナル利益及權利確立セラレ居レリトナスハ鮭工業ニ利害關係アル太平洋沿岸ノ米國市民幾百萬更ニハ米國民衆一般ノ側ニ於テ強キ信念ナルト共ニ未タ嘗テ疑問ノ餘地ヲ殘ササリシ

見解ナリ

多數米國市民ハ「プリストル」灣及「アラスカ」海域ニ於ケル其他區域ノ鮭群ハ米國資源ナルコト、鮭漁ハ米大陸殊ニ西北部地方ニ關係シ且ツ之ト連結セラレ居ルコト及實際の見地ヨリシテ鮭工業ハ事實上太平洋西北沿岸地方ノ經濟生活ノ一部ヲナスモノナリトノ意見ヲ抱懷シ居ルモノナリ「アラスカ」沿岸沖ノ海域ヨリ捕獲セララルル鮭魚ハ米國領内水ニ於テ産卵且ツ孵化シ之等カ廻游ヲ遮斷セララルル時ハ米國領海ニ向ヒ歸リ來ル途上ニ在ルノ事實ニ依リテモ是等資源ニハ特殊且ツ紛レモナキ米國ノ利益カ存在シ居レリトノ確信ヲ更ニ深カラシムルモノナリ

「プリストル」灣産紅鮭ハ同灣ニ注ク諸河川及隣接地域ノ湖沼ニ産卵セラレ幼魚ハ孵化ノ後淡水地ニ一年若クハ二年間棲息シタル後海ニ向ヒ移動スルモノナリ向海移動ノ後二ヶ年若クハ三ヶ年内ニ産卵地タル前記ノ河川ニ廻行シテ死亡ス、鮭カ商業的の漁撈ニ委ネラレ、保存工作ノ必要發生スルハ前記産卵ノタメノ移動中ノコトナリ

主要「アラスカ」漁業區域殊ニ「プリストル」灣ニ於テハ鮭ハ水面近クニ群ヲ成シテ現ハレ又主トシテ是等海域ノ深

サ小ナルカ故ニ之等魚群カ主ニ公海ヲ通過シ大陸沿岸ノ淺瀬ニ向ヘル後ニ補獲^捕セラル大陸沿岸ノ淺瀬ハ沿岸ヨリ可成リノ距離ニ亘リテ擴カリ居リ從テ深海及鮭ノ産卵地タル内地河川竝ニ湖沼間ニ一種ノ架橋ヲ成シ居レリ米國漁業者ニ於テハ鮭漁業ハ或ル「アラスカ」沿海ノ比較的淺キ沿岸沖ノ地域ニ於テ成功ノ二行ハレ得ヘキコト、發動機船、長ク且ツ深キ漁網及ヒ特殊ノ曳網ヲ使用スルコトニ依リ一人當リ鮭捕獲ハ著シク増加スヘキコトヲ知悉シ居レリ「アラスカ」沖漁業ニ従事セル日本人ニヨリ是等ノ比較的有効ナル手段行使セラレ居リ他方米國漁業者ニハ同様ノ手段拒否セラレ居レリトノ見透ハ米國市民ノ間ニ重大ナル關心ト不滿ノ意思表示ヲ呼ヒ起サシメタリ若シモ外國人民カ「アラスカ」沿岸沖ニ於テ漁業ノ遂行ヲ許サルルニ於テハ斯ル漁業ニ従事スル者ノ意圖ノ如何ニ拘ハラス米國政府ノ保存工作ハ比較的短期間ノ内ニ完全ニ無効化セラレハシトハ何人ニ取りテモ明瞭ナル所ナリ、斯ル結果ハ米國市民ノ一般の努力ニ依リ開發セラレタル資源カ破壊(如何ニ善意ナリシトスルモ)セラルルコトアルヤモ測ラレサル事實ニ對シテハ、如何ニ顯著ナル經濟的利益アリトスルモ日本人ニ取りテモ

收支償ハサルヘシトノ理由ニヨリ一層嘆^マハルヘキ次第ナリ太平洋沿岸地方ノ經濟的福祉ト鮭工業ノ永續化トハ特ニ相互依存ノモノナリ、漁業ニ従事スル被備者及之ニ投資セラレタル資本ハ多ク太平洋沿岸西北部諸州ヨリ供給セラレ、「アラスカ」鮭工業ハ漸次一八七八年ニ於テ一萬五百「ケース」ヲ製産シ得タル罐詰工場一ノ時代ヨリ一九三六年ニ於テ八百十七ノ近代式罐詰工場ヲ以テ成リ二萬五千人ノ従業員ヲ擁シ、約八百五十萬「ケース」ヲ罐詰シ得ルカ如キ工業ニ發展シタルモノナリ。「ブリストル」灣漁撈ハ四百「ケース」ノ試験的罐詰ニ始マリ一九三六年迄ニハ二十四隻ノ罐詰母船カ作業ニ従事シ八千人ノ従業員ヲ要シ同年ニ於テ罐詰セラレタル鮭ノ量ハ百五十萬「ケース」ニ達シタリ「アラスカ」鮭工業ハ其自身重要ナルノミナラス幾千ノ米國市民ヲ就業セシメ居ル關係各産業ニ對シ直接且重要ナル影響ヲ及ボシ亦將來モ斯クアルヘシ。太平洋沿岸ニ於ケル造船業、運輸會社、保險會社銀行及船具竝ニ漁業上ノ備品製造業者ハ鮭工業ニ於ケル正常ナル生産水準ヲ豫期シテ各自投資竝ニ作業計畫ヲ既ニ樹立シ居レリ。確實ナル見積り

ニ依レハ「アラスカ」ニ於ケル鮭罐詰工業全体トシテ年々船客竝ニ船荷取扱ノ爲約三百五十萬弗罐詰材料ノ爲ニ約七百五十萬弗ヲ支拂ヒ居リ租稅竝ニ鮭工業遂行ニ隨伴スル諸供給品ノ爲概略一千五百萬弗ヲ支出シ居レリ。漁業ニ要スル諸供給品竝ニ備品ノ製造ハ太平洋沿岸地域ノミナラス米國內ノ遠隔地方ニ於ケル職業及產業上ノ計畫ニ寄與スル處甚大ナリ

「アラスカ」ニ隣接スル漁業海域ニ於ケル「アラスカ」住民ノ利益モ亦實際的且重大ナリ。「アラスカ」領ノ全財政的竝ニ經濟的福祉ハ鮭漁業ノ繁榮ノ維持ニ依存シ居リ、一般歲入ノ約八十「パーセント」ハ鮭漁業ヨリ醸出セラル。然ルカ故ニ「アラスカ」政府ノ一般政務ノ歲出ノミナラス其ノ教育制度及公益施設ノ維持費モ亦「アラスカ」沿海ニ於ケル鮭資源ノ永續化ニ依存セルコト明瞭ナリ。「アラスカ」ノ對米貿易ハ海上運輸ニ局限セラレ居ルコト及カカル交易ノ基本タル諸機關ハ間接的ニ鮭工業ノ安定ト繁榮ニ依存セルコトハ亦重要ナル要素ナリ

彼上ノ諸見解ハ米國議會ノ諸議員、「アラスカ」領選出議會代表、米國多數新聞及太平洋沿岸ノ商業上ノ利害關係者

竝ニ住民一般ノ強ク支持スルトコロナリ。本問題ニ對シ速カニ解決ヲ計リ「アラスカ」ノ鮭資源ノ適切ナル保護ヲ爲スニ非ザレバ現存ノ緊迫セル狀態ハ更ニ深刻化シ事態ハ益々紛糾スベキヤモ測ラレザルベシ

米國政府ハ米國市民ノ何等團體ニシテ既ニ發端セル諸懸案ノ外交手續ニ依ル處理ヲ一層困難ナラシムルヤモ知レザルガ如キ行動ニ出デザルヤウ勸告シ又積極的ニ之ヲ「デスカレッヂ」シタル事實アルニモ拘ハラズ同政府ハ太平洋沿岸ノ諸分子ニ依リ米國及日本ノ通商關係ヲ攪亂センコトヲ目的トスル各種ノ活動ヲ開始セントノ努力ナサルルヤモ知レザルコト及論議ノ發生シ居ル漁業區域内ノ米國及日本ノ漁業者間ニ重大且不測ノ事件發生スルノ可能性ヲ想見セザルベカラザルコトヲ信スヘキ理由ヲ有ス

斯クノ如キ事態ニ於テ「ラヂオ」及新聞ノ現實的且ツ潜在的影響ヲ考慮スルコト重要ナリ、是等双方ノ公表機關ノ媒介ニ依リ「プリストル」灣ニ於ケル日本船舶ノ出動竝ニ是等船舶ニ依テ「アラスカ」鮭工業ニ於ケル米國人ノ雇傭關係及投資ノ蒙ムルコトアル可キ被害ニ關シ米國民衆ノ注意ハ屢々喚起セラレタリ此ノ發表ニ刺戟セラレ且勢附キタル

爲太平洋沿岸諸港ニ於ケル波止場人足組合ハ日本船載貨ノ取扱中止ニ依リ日米通商關係ヲ斷絶セシメントスル目的ヲ以テ行動ス可キコトヲ既ニ企圖セル旨決議セリ、米國漁業者ノ大多數ハ太平洋沿岸ヲ其ノ永住地トシ、且ツ海運聯合Maritime Federationニ加入シ居ル事實ニ依リ、同聯合力漁業組合ヲ支持スル行動ニ出ス可キ可能性ハ益々増加シツツアリ

最近議會ニ提出サレタル「アラスカ」鮭工業保護法案ハ鮭漁業ニ關スル民衆ノ廣汎ナル懸念ヲ反映セルモノナリ右法案ハ其ノ支持者達ニヨリ問題トナレル資源ニ關シ米國市民ハ第一次且優位的ナル權利利益ヲ確立シタリトノ考慮ニ淵源スル正當且公正ナル原則ニ基クモノナリト思考セラレ居リ、加之同法案ニ對スル支持ハ漸次増大シツツアリ議會内外ニ於テ、地方的ナルヨリモ寧ろ全國的性質ヲ帯ヒントシツツアリ

米國政府ハ日本政府カ右事態ニ包藏セラルル問題ノ重要性ト、該問題處置ノ爲早速且有效ナル行動ニ出ツルコトノ緊要性ヲ知悉セラレンコトヲ確信スルモノナリ、米國政府ハ亦「アラスカ」鮭資源保護ノ爲ニ到達セラル可キ何等解決

若クハ協定ハ「ブリストル」灣地域ニ關スルノミナラス「アラスカ」領ニ近接スル一切ノ主要米國鮭漁撈海域ヲモ包含シ且ツ之ニ保護ヲ供與ス可キモノナリト信ス、右聲明ニ於テ特ニ「ブリストル」灣ニ於ケル事態ニ重點ノ置カレタルハ日本漁船ノ活動カ同灣ニ於テ主トシテ觀察セラレタルニ依リ、此ノ理由ニ依リ他ノ「アラスカ」海域ニ於ケル同様ノ事態ハ米國ノ漁業關係者ニ對シ關心ノ程度比較的小ナリト推論セラル可キモノニ非ス米國人ノ努力ト經濟的犠牲ニ依リ養成セラレ永續化セラレタル産業トシテノ「アラスカ」鮭漁業ノ高度ノ重要性ヲ顧念シ、米國政府ハ斯ル資源ノ保護ガ公正及ビ正義ノ重要ナル原則ヲ包含スルモノナルコトヲ確信スルモノナリ一國ノ國民ニ依リテ樹立セラレタル前記産業カ正當ニ他國ノ國民ニ依リテ破壊セラルルニ委セラレ得サル可シトハ正義ノ健全ナル原則ナリト思考セラレサル可カラサル次第ナリ米國政府ハ「アラスカ」鮭漁業保護ノ權利若クハ義務ハ其ノ發達ト永續化ノ状態ニ依ルモ絶對的ニ支持セラル可キモノナルノミナラズ當該關係諸國民團體内ニ於テ重要視セラル可キモノナリト信スル次第ナリ是等ノ確信ハ、米國人ガ「アラスカ」海域ニ於ケル外國漁船

ノ出現ヲ以テ其ノ雇傭關係及ヒ一般の福祉ニ對スル危險若クハ脅威ナリト看做スヘシトノ基本的考慮ニ依ツテ更ニ強
化セラルルモノナリ

一九三七年十一月二十二日於東京

編注 本文書の原文(英文)は省略。

1399

昭和12年12月7日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

ブリストル湾鮭漁問題に関する米國覚書への
回答方針について

本省 12月7日後8時35分発

第四二八號

貴電第六〇九號ニ關シ

客月廿四日「グルー」大使本大臣ヲ來訪シ廿二日附覺書及
廿四日附「エイド、メモアル」(貴館ニモ同寫送付アリ
タルコトト思考ス)手交セルニ付農林省ト數次協議ノ結果
大局の見地ヨリ此際明年度同省試験船ノ調査ヲ一應中止シ
能フ限り好意的考慮ヲ拂フ(當業者ニ出漁許可ヲ與ヘサル

コトヲ意味ス)コトトスベキコトニ内定ヲ見タルガ目下日
蘇漁業交渉「デリケート」ナル折柄對米正式回答ノ時期慎
重考慮中ナリ

尙ホ沿岸地方ノ緊迫セル空氣ニモ鑑ミ吉澤局長ヨリ「ドウ
マン」參事官ニ對シ右内定ニ付内話シ置キタリ
紐育、桑港、シヤトルヘ轉電アリ度シ

1400

昭和12年12月7日 広田外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ブリストル湾鮭漁問題に関する米國覚書と日
ソ漁業問題との關係性につき通報

本省 12月7日後9時40分発

第六三五號(極秘)

貴電第一一〇八號ニ關シ

「ブリストル」灣方面ニ於ケル鮭沖取ハ有望ナルヲ以テ(年
額三千萬圓程度ニ達スル見込)本邦業者ニシテ出漁ヲ欲ス
ル者多キ處我方トシテハ對米關係ヲ慮リ農林省ヨリ同方面
へ試験船ヲ派遣スルコトトシ(昭和十一、十二年度ハ既に
實施シ尙ホ十三年度分ノ予算ヲ有ス)右試験完了スルマデ

ハ同方面出漁ノ免許ヲ爲サザル建前ヲトリ其旨米國政府ハモ傳ヘアル次第ナリ(事實現在迄一隻モ許可シ居ラス)

右農林省ノ調査ハ「ブリストル」近海ニ於ケル鮭魚族資源ノ保存ヲ計ル傍ラ公海資源ヲ開發スルノ途アリヤ否ヤヲ目トスルモノニシテ未タ米國トノ協定其他ノ話合ヲ考慮スル迄ニハ至リ居ラス然ルニ米國政府ハ本年七月五日當該方面海面ニ於ケル漁業關係國間ニ多邊の協約ヲ締結シ締約國ハ自國民カ他締約國沿海五十哩以内ニ於テ鮭魚業ヲ禁ス可キ旨規定センコトヲ提議シ來レルガ直接利害關係ナキ「ソヴキエツト」ヲモ關與セシメントスルコトニ多大ノ困難アルコトヲ不敢表示シ今ノ所默殺シ來レリ本件ハ當方ノ意向ヲ承知シタル上ニテ「ソ」側ニモ交渉スル意向ナル趣ニテ當方ニ事前ニ協議セズシテ「ソ」側ニ提案スルコトナキ様念ヲ押シ置キタリ

今次事變ノ發生ト共ニ米國西岸ニ於テ本問題ヲ對日「ボイコット」ト關聯セシメ本邦漁船ノ進出ハ「アラスカ」魚族ヲ涸渴セシムルニ至ルベシト吹聴シ排日ノ口實トナシ沿岸勞働團體ハ本邦船荷揚ヲ十一月十五日ヲ期シ「ボイコット」スベシト脅シタルガ漁期中前記農林省試験船大洋丸ガ同方

面ニ赴キタルハ事實ナルモ他ノ民間業者ノ出漁セシモノ無ク其旨情報部長ヲシテ發表セシムルト同時ニ駐米大使ヲシテ右ノ事實ヲ國務省ニ説明スルト共ニ排日思想ヲ煽ルガ如キ言論取締方申入レシメ置キタリ

更ニ在京米國大使館ヨリ十一月二十二日附覺書及同二十四日附「エード、メモアール」ヲ以テ前記米國側五十哩提案ニ關聯シ「アラスカ」漁業問題ノ解決ヲ此上遷延スルトキハ太平洋沿岸ニ於テ重大ナル紛議ガ惹起セラルルノ危険アリ現下ノ狀態ニテ最モ緊要ナルハ時機ヲ失セザルコトニシテ反日「ボイコット」其他日米通商ノ妨害ヲ目的トスル各種運動ニ依リ何等結果ノ發生スベキコトハ明ナルガ斯種運動ハ米國政府ノ力ヲ以テハ阻止シ得ザル可キヲ述ベ本件ニ關シ速カニ暫定的取極ナリトモナスノ要アル旨申入レ來レルニ付關係省トモ連絡シ明年度調査ヲ一應中止シ從而出漁許可ヲ與ヘザルコトニスベク協議濟ナルガ日蘇間漁業問題「デリケート」ナル折柄ニモアリ對米回答ノ時期ハ慎重考慮中ナリ

1401

昭和十二年十二月八日

堀内外務次官より
井野(碩哉)農林次官宛

ブリストル湾鮭漁況調査の一時打切りにつ

き照会

米一機密第六〇九號

昭和十二年十二月八日

外務次官 堀内 謙介

農林次官 井野 碩哉殿

「ブリストル」灣方面ニ於ケル邦人ノ鮭漁業ニ關スル件
「ブリストル」灣ニ於ケル邦人鮭漁業進出ノ問題ニ關シ本年七月五日附在本邦米國大使館申出ノ次第ハ當時七月九日附米一機密第三九四號ヲ以テ申進置キタルトコロ其後重ネテ去ル十一月二十四日米國大使外務大臣ヲ來訪申入ノ次第アリタルコト十二月一日附米一機密第五九六號ニテ御承知ノ通ナルカ現ニ支那事變ヲ圍リテ國際關係極メテ機微ナル際ニ有之殊ニ米國內ニ於テハ左記事情ニヨリ本問題ヲ以テ對日「ボイコット」ノ口實ニ利用セントスルノ形勢アリ萬一之カ實現ヲ見ルカ如キコトアランカ國際紛糾ヲ來スノ虞アルハ言フニ及ハス經濟上ノ見地ヨリノミ看ルモ我對米輸

出ノ大宗タル四億圓ニ近キ生糸ノ輸出貿易ニ一大支障ヲ與フベキハ云フヲ俟タザルノミナラス延テハ對支軍事行動ノ遂行ニ迄累ヲ及ホスヘキコト豫見ニ難カラサル次第ナルニ付テハ米國側ノ提唱スルカ如キ本問題ノ根本的解決ハ暫ク之ヲ措クモ差當リノ處置トシテ現在貴省ニ於テ昭和十一年以來三ヶ年ノ繼續事業トシテ實施中ナル試驗船ニ依ル當該地方鮭漁狀況調査ヲ一時打切り以テ國際的磨擦^(摩カ)ノ一因ヲ除去スルコト喫緊ノ必要事ト思量セラルルニ付テハ慎重御考慮ヲ相仰キ度ク米國側ヘ回答ノ都合モ有之御意向至急御回答ヲ得度シ

記

一、米國ノ動向態度ハ支那事變ノ歸趨ニ重大ナル關係ヲ有ス
北支事變勃發以來支那カ有ユル努力ヲ竭シテ米國ノ援助ヲ希求シタルコトハ言フ迄モナキトコロナルカ英國モ支那ニ於ケル其權益ヲ確保シ事變ヲ自己ニ有利ニ解決センカ爲事毎ニ米國ヲ誘テ共同動作ニ出テシメント企圖シタルモ今日迄米國ハ國內ニ於ケル所謂孤立主義者ノ勢力強ク屢次ノ對日抗議モ原則トシテ獨自ノ立場ヨリ之ヲ爲シ英國及之ニ追隨セントスル佛國乃至蘇聯其他ノ小國ヲ失

望セシメ從テ支那ノ以夷制夷ノ策ヲ充分ニ發揮スルノ餘地ナカラシメタル次第ナルカ萬一「ブリストル」灣鮭魚問題カ導火線トナリテ對日「ボイコット」ヲ強行スルカ如キ事態トナルニ於テハ豫テヨリ對日「ボイコット」ヲ強調シ來レル英國勞働界ハ勿論其他ノ各國ニ於テ對日經濟制裁論ニ氣勢ヲ添フルニ至ルヘキコト逆睹スルニ難カラス

二、米國政府ノ政策決定ニ強大ナル勢力ヲ有スル輿論ハ決シテ我方ニ同情的ナラス

北支事變勃發以來ノ米國輿論ハ滿洲事變ノ當時程ニ非ストスルモ決シテ日本ノ立場ヲ理解シ我行動ヲ是認シ居ル次第ニ非ス唯當面外交ノ衝ニ當レル「ハル」國務長官ハ「フーヴァー」ノ下ニ於ケル「ステイムソン」ノ如ク法律的純理論ニ捉ハレテ猝ニ我國ノ政策ヲ糺彈スルノ態度ニ出テス其對日態度極メテ慎重ナリシモ軍事行動進捗シテ我南京空爆聲明竝ニ我潛水艦ノ支那漁船擊沈ノ虛報等ニヨリ英國ノ輿論惡化スルヤ米國ノ輿論亦之ニ呼應シテ惡化シ十月五日ノ大統領ノ「シカゴ」演説及翌日ノ國務省聲明ハ此ノ如キ輿論ノ趨勢ニ鑑ミ政府トシテ之ニ即應

スルノ態度ヲ表示スルノ必要ニ迫ラレタルニ外ナラスト看ラレツツアリ其後九國會議ニ於テ米國全權カ指導的態度ヲ執リ余リニ深入リスルノ危險ヲ看取スルヤ輿論ハ逆轉ノ徵ヲ示シタルコト事實ナルモ「ブリストル」問題關係者ノ執拗ナル宣傳ヲ放置スルニ於テハ何時再轉シテ惡化スルヤモ測リ難シ

三、本邦鮭漁業ノ「ブリストル」灣進出ニ對スル太平洋岸地方關係者ノ反對ハ重大ナル政治問題化セリ

「アラスカ」ニ於ケル鮭罐詰製造業ハ同州ノ財政及主トシテ「ワシントン」州ニ本據ヲ置ク關係資本家、漁夫、製罐業者、交通運輸關係者等ノ生活ニ至大ノ關係ヲ有スル趣ニシテ本邦漁船「ブリストル」灣方面ニ進出ノ噂傳ヘラルルヤ地方的ニ種々ノ反對運動行ハレタルノミナラズ關係諸州ノ選出議員ニ依リ議會ニ於ケル論議ノ題目トセラレ政府モ之ヲ放置スルヲ得ズ茲ニ全國的ノ問題トナリタル次第ナルガ今次事變ノ勃發以來巧ニ對日反感ヲ利用シテ平和主義的の反戰的ナル勞働者ガ一氣ニ本問題ノ解決ヲ圖ラントシ資本家モ勿論此ノ氣勢ヲ煽レルヲ以テ真相ヲ知ラザル一般大衆モ折角米國ガ保存蕃殖ニ努力シツ

ツアル資源ヲ我漁船ガ理不盡ニ濫獲シテ米國勞働者ノ生業ヲ奪ハントスルモノナルカニ誤信スルニ至レリ此ノ如キ事情ナルヲ以テ我方ノ公海ニ於テハ何國ト雖モ自由ニ漁業ニ從事スルノ權利アリトナス國際法上ノ主張ガ如何ニ正當ナリトスルモ米國ノ河川湖沼ニテ孵化シ一旦外洋ニ周游スルモ再ビ産卵ノ爲メ歸還スル鮭ハ米國ニ歸屬ストノ議論ヲ吹込マレアル一般ハ之ニ耳ヲ傾クルコトヲ肯ゼザルノ事態ニ立至レリ

四、米國勞働界ハ對日「ボイコット」ノ原則ヲ決定セルヲ以テ「アラスカ」漁夫組合ノ主張ヲ支持セザルベカラザル立場ニ在リ

米國勞働界ハ從來ノ米國勞働總同盟即チ A、F、L 之ニ對立スル新興ノ產業別組合主義團體即チ C、I、O トノ二大分野ニ分ルルトコロ兩者共英國勞働界ヨリノ誘引ニ應ジテ十月中前後シテ開カレタル大會ニ於テ孰レモ日本ノ對支主張ヲ非ナリトシテ之ニ對シテ「ボイコット」ニヨル制裁ヲ加フベキコトヲ決議シタリ但シ兩團體共他ニ緊急ノ問題ヲ控ヘ居ルト一方對日「ボイコット」ニ對シテハ有力ナル反對意見モアルヲ以テ幸今日ニ至ル迄勞

働者ニ依ル「ボイコット」ノ實行セラレタル事例ナシト雖モ若シ「アラスカ」ニ於ケル漁業勞働者團體タル「アラスカ」漁夫組合ニシテ強硬ニ對日「ボイコット」ヲ主張スルニ於テハ他ノ勞働組合モ之ヲ支持シテ一般的對日「ボイコット」ヲ誘致スルノ可能性在ルモノト言ハザルベカラズ

五、「アラスカ」漁夫組合ト太平洋沿岸海運聯盟トノ關係ハ殊ニ留意スルヲ要ス

「アラスカ」漁夫組合ハ太平洋沿岸海運聯盟ノ構成團體ナルガ同聯盟ノ所屬團體中ニハ前顯 C、I、O 系ニ屬シ一九三四年ノ海運罷業以來其ノ共產黨的色彩ヲ以テ知ラルル國際仲仕組合アリ「アラスカ」漁夫組合ハ豫テ十一月十五日迄ニ「プリストル」灣本邦鮭漁業進出問題カ其ノ主張通り解決セザルニ於テハ恰モ漁閑期ヲ利用シテ太平洋沿岸所在ノ米國諸港ニ出入スル邦船ニ對シテ「ピケツト・ライン」ヲ張ルベシト稱シ居ルルトコロ右期日ヲ過グルモ當省ノ申入ニ基キ國務省カ妄動ヲ戒メ居ル爲メト見エ幸今以テ實行ヲ見ルニ至ラザルモ問題ノ解決ヲ遷延スルニ於テハ漁夫組合ハ「ピケツト」ヲ實施スベク

其ノ際前記ノ如キ關係ニ在ル仲仕組合ノ組合員ハ「ピケツト・ライン」ヲ敢テ突破シテ邦船ノ爲メニ荷役セザルベク其ノ爲メニ我對米貿易ノ蒙ルベキ影響ニ付テハ敢テ茲ニ絮説ヲ要セザルベシ

六、一旦對日「ボイコット」ノ實行ヲ見ルニ於テハ其ノ波及スルトコロ豫測ヲ許サザルモノアリ

米國ニ於テ邦品ノ「ボイコット」ヲ主張スルモノハ前記感情的理由ニ出ヅル勞働者ノミニ非ズ豫テ廉價ニシテ優良ナル本邦製品ノ競争ニ依リテ重壓ヲ感ジツツアリタル一部製造業者ハ有ユル手段ヲ竭シテ邦品ノ進出ヲ防壓セント努力シツツアリタル次第ナルヲ以テ一旦對日「ボイコット」ガ實施セラルルニ於テハ自己ノ利害關係ヲ有スル方面ニモ其ノ風潮ヲ誘入セント努ムルニ至ルベク滿洲事變當時モ又今次事變勃發以來モ屢々傳ヘラレタル生糸ノ如キ其ノ影響ヲ免レザルベキコトヲ惧ル勿論此ノ如キ廣汎ナル「ボイコット」ノ實現如何ハ今後ノ戦局ノ進展乃至時局收拾ノ如何ニ伴テ展開スベキ日米關係ノ大局ニ繫ル次第ナルモ「ブリストル」灣問題解決ノ遷延ハ確ニ對日感情ヲ惡化セシメ紋上憂慮スベキ情勢ヲ招ク一ノ端

緒ヲ爲スモノナリト言ハザルベカラズ

1402

昭和12年12月22日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

ブリストル湾鮭漁問題に関する米國覚書への
わが方回答手交について

別電

昭和十二年十二月二十二日發広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛第四六七号

右わが方回答

本省 12月22日後11時35分發

第四六七號

往電第四二八號ニ關シ

二十二日「ドーマン」參事官ノ來訪ヲ求メ吉澤局長ヨリ別電第四六七號ノ通りノ口上書ヲ手交セシメタリ

其際吉澤ヨリ右口上書後段「好意的考慮ヲ拂フ」トアルハ本邦當業者ニブリストル灣方面ヘノ出漁許可ヲ與ヘザルコトヲ意味スル旨竝ニ追而書ニ付テハ當然ノ歸結トシテ來年度ハ一隻ト雖モ問題ノ方面ニ於テ鮭漁ニ從事スル日本船ヲ見ザルコトトナルベキ旨補足説明ヲ加ヘ尙大体右口上書ヲ

基礎トスル公表文案ヲモ示シテ國務省ニ照會ヲ求メタル趣ナリ

別電ト共ニ紐育、桑港、シアトルヘ轉電アリ度シ

(別電)

本省 12月22日午後11時50分發

第四六七號

帝國外務省ハ在京米國大使カ外務大臣ト十一月二十四日會談ノ際手交セラレタル覺ニ於テ米國政府ハ「アラスカ」漁業問題解決ヲ此上遷延スルニ於テハ太平洋岸ニ於テ重大ナル紛擾ヲ惹起スルノ危險ヲ招來ス可ク問題解決上時間ハ最も緊要ナル關係ヲ有ツニ至レリトノ見解ヲ有セラルル旨殊ニ各種勞動團體ニ於テ本問題ニ關聯シテ種々ノ畫策アル趣ニモ有之此際事態ヲ紛糾セシムルカ如キ不祥事發生ノ危險ヲ減殺スル爲ニハ急速ナル行動ヲ執ルノ要アルコトヲ日本政府ニ於テ切實ニ考量方特ニ冀望セラルル旨御申越ノ趣了承セリ帝國政府ハ抑々鮭漁業カ公海ニ於テ行ハルルモノナル限り外國ヨリ何等制肘ヲ受クヘキ筋合ノモノニ非ストノ主張ノ正當性ヲ確信スルモノニシテ殊ニ況ヤ我方カ魚族資

源ノ維持竝ニ既存漁業トノ調和ヲ圖リツツ公海ニ於ケル資源開發可能ノ適正ナル限度ニ付キ調査スルノ目的ノ下ニ三年計畫ヲ以テ實施中ノ試驗船ニヨル官行調査ニ至ツテハ何等論議ノ對象トナリ得サルモノナリト思量スル次第ナルモ前記御申越ノ次第モ有之日米兩國々交ノ大局の見地ヨリ此際姑ク自發の二本漁業ニ關スル切實ナル意圖ヲ抑制シ昭和十三年度ニ於ケル既定計畫ニ基ク前記調査ノ續行ヲモ一應中止シ以テ能フ限りノ好意的考慮ヲ拂フノ用意アル旨回答申進スルノ光榮ヲ有ス

但シ本件調査ノ中止ハ本邦當業者側ニ對シ尠カラサル刺戟ヲ與フヘキコト豫想セラルル處ニシテ本邦國內關係上極メテ機微ノ問題ナルヲ以テ右帝國政府ノ意嚮發表ノ時期ニ付テハ日米兩國政府間ニ打合ノ上之ヲ決定スルコトト致度シ追而本邦蟹工船及「フィッシュ、ミール」工船ハ從來通り「プリストル」灣方面ニ出漁スヘキ處是等工船カ全ク鮭漁業トハ關係ヲ有セサルコトハ夙ニ御承知ノ通りナルカ過去ニ於テ此間ノ事情ヲ了解セサルモノカ前記試驗船ノ行動ト牽聯セシメテ時ニ誤解ヲ生セシメタルノ嫌アルニ鑑ミ右爲念申添フ

1403

昭和12年12月24日
在米国齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

プリストール湾鮭漁問題の公表振りに関し米国
国務省へ回答督促について

ワシントン 12月24日前發
本 省 12月25日前着

第六九八號

貴電第四六六號ニ關シ(「アラスカ」鮭漁業ニ關シ對米回答ノ件)

廿三日須磨ヨリ「ハミルトン」極東部長ニ電話ヲ以テ公表
文案ニ對スル回答ハ何日頃訓電ノ運トナルヤ問合せタル處
「ハ」ハ右文案ニ對シテハ目下慎重考究ヲ加ヘツツアルモ
多少ノ修正ヲ申出ツルコトトナルヤモ知レス何レノ途ニ十
七日前ニハ回訓困難ナルヘシト答ヘタル趣ニテ或ハ本件公
表ノ時期ヲ「バナイ」事件ノ解決ト結付ケ考慮シ居ルニア
ラスヤトモ推測セラルルニ付右御含ノ上貴方御希望ノ公表
時期ニ付テモ適宜手加減ヲ加ヘラレ在京米國大使館側ト御
交渉相成ルコト然ルヘシト存ス爲念



1404

昭和13年1月27日
在米国齋藤大使宛(電報)

プリストール湾鮭漁問題に関する公表内容を米
国側提案について

本 省 1月27日後9時20分發

第二〇號
往電第四六六號ニ關シ

廿五日「グルー」大使本大臣ヲ來訪プリストール湾鮭漁ニ關
スル當方回答ニ付米國側見解ヲ述ヘタル非公式覺書ヲ手交
續イテ翌二十六日「ドウマン」參事官吉澤局長ヲ來訪シ右
覺書ニ付補足説明スル處アリタルガ米國側トシテハ米國民
衆ヲ納得セシムル爲メニハ
一、日本政府ハ本件漁業ノ「ライセンス」ヲ發給セズ
二、試験船出航セズ
三、蟹工船、「フィツシユ、ミール」工船ハ從來鮭漁ヲ行ヒ
タリト一般ニ疑ハレ居リ米國政府ニ於テモ其證據ヲ有シ
居ルコトニモアリ兩工船ノ就漁ハ差支ナキモ右ノ疑ヲ解
消スル爲米國「コーストガード」或ハ漁業官ヲシテ右工
船ニ「フレンドリーヴィジット」ヲナサシムルコトニ兩

國政府間ニ非公式諒解ヲ遂ゲ

トノ發表ヲナスノ要アリト述ベタルニ對シ吉澤局長ハ

一、二付現在農林省ハ本件二付キ進シテ發表スルコトヲ欲セ

ズ米國側發表ガ自然本邦ニ傳ハルハ差支ナシトノ態度ナ

レバ(此ノ點同省當初ノ態度ニ變化アリ)適當ナル行文ニ

付協議ヲ遂ケラルルコトトスルニ於テハ恐ラク反對ナカ

ルベシト思考スルモ一應問合ノ必要アリ

二、二付テハ問題ナシ

三、二付テハ米國側ハ兩種ノ工船ガ鮭ヲ漁獲シツツアリトノ

主張ヲ前提トスル處當方ハ是等工船ガ技術的ニ鮭漁ヲナ

シ得ズト信スルヲ以テ米國側ヨリ具體的證據ノ提示アリ

タルニヨリテ我方ガ調査シタル上ニ非レバ米國側ノ主張

ヲ容認シ得ズ假ニ百歩ヲ讓リテ疑惑ノ根據アリトスルモ

實際問題トシテ種々困難アリ是等工船乗組員ハ氣荒キ連

中ニテ言語不通等ノ爲如何ナル事態ヲ生スルヤ不計試驗

船ノ出動ナクナレバ誤解ハ一掃サルベク米國政府ハ此處

迄乗出シタル日本政府ノ誠意ニ信頼シテ可ナルベシ

ト應酬セルニ「ド」ハ然ラバ自分ヨリ國務省ニ宛テ米國側

ニ於テ確證ヲ擧ゲ日本側亦疑惑ノ根據アリト認メタル場合

ニハ日本側トシテ自發的ニ執ルベキ措置ヲ考慮スルノ用意

アル旨電報シ差支ナキヤト問ヘルニ付吉澤ヨリ差支ナキ旨

答ヘ置キタル趣ナリ

本件農林省ニ話濟ミ

紐育、桑港、「シヤトル」ヘ轉電アリ度シ

~~~~~

1405 昭和13年3月3日 広田外務大臣より  
在米國齋藤大使宛(電報)

ブリストル灣鮭漁問題に関する報道記事への

わが方対応振りについて

本省 3月3日後8時10分發

第六七號

三月二日中外商業新報ハ「アラスカ出漁解決ヘ」ナル題下

ニ本件交渉ノ經緯ヲ敍シ本邦側ヨリ米國政府ニ對シ本年度

農林省調査船派遣ヲ中止スル旨正式通達セリトノ記事ヲ掲

ケタル爲同日情報部長ハ外人記者會見ニ於テ本件ニ關シ相

當質問ヲ受ケタル由ナルモ深入ヲシタル説明ハ避ケタル趣

ナリ

右記事ハ恐ラク吉澤局長ガ數日前田中社長ノ質問ニ答ヘテ

爲シタル内話ニ端ヲ發シタルモノト認メラルルヲ以テ同局長ハ三日「ドウマン」ノ來訪ヲ求メ右中外ノ記事ノ出ルニ至レル事情ヲ説明シタル上本邦側回答ヲ發出シタルハ旧臘ノコトニ屬シコレガ發表振リニ關シ英文「テキスト」迄協議シテヨリモ約一ヶ月ヲ過クルニ拘ラズ米國側ヨリ何等意思表示ナキ爲メ種々揣摩臆測ヲ生シ今後此ノ如キ記事ノ出ヅルコトヲ抑フル能ハザルニ至ルベク又岩倉男爵ハ近ク貴族院ニ於テ本件ニ關シ質問セントシツツアル趣ニテ一方米國側ニ於テモ二月廿一日「ブルツクリン、デーリー、イーグル」記事(紐育特情第六四號)ノ如キモノ現ハレ不必要ニ解決ヲ困難ナラシムルコトヲ虞ルル旨懇談シタルニ「ド」ハ早速國務省ノ注意ヲ喚起スベシト述ベ尙前記「ブ」紙記事ニ付テハ如何ニシテ此ノ如キ *distorted news* ガ流布セララルヤ了解ニ苦ム次第二シテ心外ニ思ヒ居ル旨洩シ居タル趣ナリ右貴官御含迄

紐育、桑港、シヤトルへ轉電アリ度シ



1406

昭和13年3月12日

広田外務大臣より  
在米國齋藤大使宛(電報)

ブリストル湾鮭漁問題に関する公表文案への  
わが方回答について

別電 昭和十三年三月十二日発広田外務大臣より在

米國齋藤大使宛第七九号

わが方修正の公表文案

本省 3月12日後8時15分發

第七八號(大至急)

往電第六七號ニ關シ

三月七日「ドウマン」參事官、吉澤局長ヲ來訪、國務省ヨリ電報アリタル米國側發表文案ヲ呈示シタルガ我方ニ於テ承服シ兼ヌル箇所モアリタルヲ以テ農林省トモ協議修正ノ上、十一日別電第七九號ノ通り米國側ニ回答セリ

本件發表ニ付テハ其後農林省ニ於テハ東京ニテハ之ヲ爲サザル方針ナリシ處、冒頭往電ノ新聞記事議會ニ於ケル質問米國新聞ニ現ハルルノ記事等ニ鑑ミ更ニ米國側發表ト同時ニ發表スルコトトナリタルガ米國側ガ別電文案ニ同意スル場合ニモ後段 *The American Government appreciates these assurances*……以下末尾ニ至ル部分ハ日本側ニテハ之ヲ發表セザル意向ナリ、尙「ド」ノ口吻ニテハ國務省ハ本件發

表ヲ急ギ居ルヲ以テ右當方案文ニ満足ノ場合ニハ十三日  
曜版ニ發表ノコトニ取計フベシトノコトナリ  
別電ト共ニ紐育、桑港、「シアトル」へ轉電アリ度シ

(別電)

本省 3月12日後8時15分發

第七九號

As a result of discussions carried between the American Government and the Government of Japan in regard to the salmon fishing activities of Japanese nationals in the off shore waters of Alaska, especially in the Bristol Bay area, reported during the past fishing season, the Japanese Government has given, without prejudice to the question of rights under international law, assurances as follows:

(1) That the Japanese Government is suspending the three year salmon fishing survey which has been in progress since 1936 in waters of Bristol Bay.

(2) That, in as much as it has been the practice in the past not to issue licenses to those vessels which desired to proceed to

the Bristol Bay area for the purpose of salmon fishing, the Japanese Government will on its own initiative, continue the said practice for the time being, and that in order to make effective this assurance the Japanese Government is prepared to take, if and when conclusive evidence is presented that any Japanese vessels, which are present in the waters in question to engage in crab fishing or in production of fish meal, operate in salmon fishery on a commercial scale, a necessary and proper measure to cause such operations to be discontinued.

The American Government appreciates these assurances which the Japanese Government has given in the spirit of collaboration in the efforts of the American Government to conserve and protect the Alaskan salmon fishery resources and is gratified that discussions have been conducted by the two Governments concerned in a friendly manner.

The assurances given by the Japanese Government are regarded as regulating the situation until such time as the problems involved may call for, and circumstances may render practicable, the taking of other measures.

1407

昭和13年3月26日

広田外務大臣より  
在米国齋藤大使宛(電報)

ブリストル湾鮭漁問題に関する公表文の最終

修正点について

本省 3月26日午後12時30分發

第九〇號(大至急)

往電第七八號ニ關シ

「ドウマン」參事官ヨリ吉澤局長ニ廿六日午前十時電話ニ  
テ米國側ハ其後當方ヨリ往電第七九號ニ稍々修正ヲ加ヘ與  
ヘ置キタル案文ニ同意シ華府時間廿五日午後十時半發表ス  
ルコトトスル旨電報アリタリト申越セリ主ナル修正ヲ舉ク  
レバ

「第二項 for the time being ヲ削除シ continue to suspend the  
issuance of such licenses トセルコト

ニ、過去ニ於テ日本船ガ營業ト認メラルル規模ニ於テ鮭漁獲

ヲナシタリトセバ右ハ日本政府ノ關知セザリシ所ナリト

ノ一節ヲ我方保證ノ項目中ニ入レズ單ニ米國側「オプ

ザーベーション」トシテ後段ニ記入セルコトナリ

紐育桑港ヘ轉電シ桑港ヨリ「シヤトル」ヘ轉電セシム

1408

昭和13年3月26日

ブリストル湾鮭漁問題に関する外務省發表

(昭和十三年三月二十六日)

「ブリストル」灣鮭漁業問題ニ關スル外務省發表

過去ニ於ケル漁業期間中ニ報道セラレタ「アラスカ」沖水  
域、殊ニ「ブリストル」灣地方ニ於ケル日本人ノ鮭漁業問  
題ニ關シ日米兩國政府間ニ行ハレタ協議ノ結果、日本政府  
ハ國際法ニ基キ享有スル諸權利ノ問題ニハ類<sup>(原々)</sup>ヲ及スコト無  
ク、下記諸項ノ保障ヲ與ヘタ

(一)日本政府ハ一九三六年以來問題ノ水面ニ於テ續行中ノ三  
ケ年ニ亘ル鮭漁業調査ヲ一時中止シテ居ルコト

(二)日本漁船ニ依ル鮭漁ハ政府ノ許可ナクシテハ之ヲ行フコ  
トヲ得ス又日本政府ハ一般民間漁船カ鮭漁業ノ目的ヲ以  
テ「ブリストル」灣地方ニ赴カウトスルニ對シ許可ヲ與  
ヘテ居ラナカッタカ今後モ引續キ當分ノ間自發的ニ許可  
證ノ發給ヲ差控フル事トシタコト竝ニ此保障ヲ有效ナラ  
シメル爲メ日本漁船ニシテ同方面ニ於テ鮭漁業ヲ營業ト  
認メラレル規模ニ於テ行ツタ確證アル場合ニハ日本政府

ハスル鮭漁ヲ停止セシメルヨウナ有效且ツ適切ナ手段ヲ  
執ルノ用意アルコト

1409

昭和十五年一月十六日 在シアトル佐藤(由己)領事より  
有田外務大臣宛

日米間に新通商条約が締結される場合はアラ  
スカ出漁を禁じる条項を挿入すべきと鮭告詰  
業者が決議したとの情報報告

普通第三〇號 (2月6日接受)

昭和十五年一月十六日

在シアトル

領事 佐藤 由己(印)

外務大臣 有田 八郎殿

日米條約改訂ニ關シ邦船ノ「アラスカ」出漁

禁遏要請決議ノ件

當地發行「パシフィック、フィッシーヤマン」誌一月號ニ  
依レハ當地方鮭罐詰業者ハ去ル十二月十九日鮭罐詰業者會  
合ニ於テ日米間ニ新條約締結セラルル場合ニハ日本漁船ノ  
「アラスカ」出漁禁遏條項挿入要請決議ヲ爲シ「ハル」國

務長官宛發送セル趣ニシテ其大要ハ「アラスカ」及太平  
洋諸州沿岸ニ於ケル鮭漁業ノ重要性及資源保護ノ見地ヨリ  
シテ日本漁船ノ米國沿海出漁ヲ新條約ニヨリ恆久的ニ禁遏  
スルノ措置ヲ執ラレ度ク特ニ現在日本ハ新條約ヲ切望シ居  
ルヲ以テ或程度米國ノ希望ヲ容レ保障ヲ爲スモノト思料ス  
云々」ト言フニ在リ

委細別添寫<sup>(省略)</sup>ニヨリ御了承相成り度此段報告ス

追而本文決議ハ「シアトル」商業會議所決議トハ何等關  
係ナキモノナルニ付爲念申添フ

本信寫送付先 在米大使 桑港 羅府 ポートランド

晚香坡

1410

昭和十五年五月24日 在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ブリストル湾での日本側操業時期に関する米

国側提案について

別電 昭和十五年五月二十四日發在米國堀内大使よ

り有田外務大臣宛第七二二号

右に関する米國側覚書要旨

第七七一號

ワシントン 5月24日後発  
本 省 5月25日後着

米一普通第三八號貴信ニ關シ  
三日附公文ヲ以テ國務長官宛通報シ置キタル處二十四日求  
メニ依リ館員國務省係官ヲ往訪シタル處同係官ハ要旨別電  
第七七二號書物ヲ讀上ケ本件ニ關シ何等誤解ヲ避クル爲日  
本側ヨリ御通報ニ接シタルコトハ米國側ノ多トシ居ルモノ  
ナルモ事情右ノ如クニシテ本件出漁ヲ豫定通り實施セラル  
ルニ於テハ却テ日本側ノ避ケントセラルル誤解ヲ生スル處  
多キニ鑑ミ至急日本側ノ好意的考慮ヲ願度キ旨述ヘタルニ  
付不取敢右申出ヲ東京へ傳達方同意シ置キタリ關係方面ト  
モ御聯絡ノ上何分ノ儀折返シ御回電相煩度シ  
尙本件提議ニ同意セラルル場合ニ於テハ別電先方申出未段  
ニモ鑑ミ米國側ニ於テ誤解ノ發生ヲ避クル爲出來得ル限り  
ノ措置ヲ講スルコトヲ條件トセラレ然ルヘシト存ス

(別電)

第七七二號

ワシントン 5月24日後発  
本 省 5月25日後着

六月下旬乃至七月上旬西經一六一度北緯五六度三〇分附近  
ニ於ケル日本水産出漁(本年四月十日附米一普通第三八號  
貴信ニ依ルコーセイ丸出漁第二期間)ハ米水産局計畫ニ基  
キ六月二十六日乃至七月二十八日ノ期間同方面ニ於テ行ハ  
ルヘキ米鮭漁業ト時期ヲ同ウシ且右ハ主要鮭漁場ニ於テ行  
ハルヘキニ付右出漁實行ノ場合ニハ「ブリストル」灣方面  
ニ出漁シ居ル米漁夫ヲシテ日本側漁夫ハ紅鮭漁業ニ從事シ  
居ルトカ鮭群ヲ追散シ居ルトカ又ハ鮭カ内水ニ登リ來ルヲ  
後ラシ居ルトカ等ノ疑念ヲ抱カシムル惧多分ニアリ而モ本  
年度ハ「アラスカ」漁業規則ニ依リ鮭漁業ノ五割方操短ヲ  
行フコトニナリ居ルヲ以テ「ブリストル」灣ノ鮭漁場内ニ  
於ケル日本人ノ出漁ハ米人漁夫ヲシテ是等ノ利益ニ脅威ヲ  
與フルモノト恐レシムルコトトモナル處元來鱒漁業ハ天候  
次第ニテ比較的長期間操業シ得ル事實アルニモ鑑ミ米政府  
漁業當局ハ日本側ニ於テ前記日本水産出漁計畫中ノ第二期  
間ヲ變更シ米鮭漁業期間中ニハ「ブリストル」灣ニ於テ鱒

漁業ニ從事セス特ニ右期間中ハ「アラスカ」「アビノツフ」岬ヨリ「アリユーシヤン」群島内ノ「アンラスカ」「チアフル」岬ニ至ル線ノ東側ニ於テ操業セサル様セラレンコトヲ提議ス

右變更ニ依リ米漁業關係者ノ懸念ヲ一掃スルニ充分ナリトハ言ヒ得サルモ右ハ一九三八年ノ日米兩政府間協定ニ依リ達成セラレタル良好ナル成績ヲ維持スルニ寄與スル所鮮カラサルヘシト信ス

1411 昭和15年6月14日

在米國壠内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ブリストル灣へ出漁する日本船に対する誤解  
を予防することは不可能であるとの米國側回  
答について

ワシントン 6月14日後發  
本省 6月15日後着

第八八四號  
貴電第二七六號ニ關シ(「ベーリング」海本部出漁ノ本邦漁船ニ關スル件)

十四日館員ヲシテ國務省係官ヲ往訪セシメ冒頭貴電ノ趣旨ヲ篤ト説示スルト共ニ同電第四項ニ關スル情報入手方申入レシメタル處同係官ハ日本側カ誤解豫防ノ爲臨機適切ナル措置ヲ執ラントスル趣旨ハ良ク了解シ之ヲ多トスルモノナルモ日本漁船ニシテ「ブリストル」灣方面ニ出漁スル以上誤解ヲ豫防スル方法ナシト思考ス實ハ國務省トシテハ先般日本側ヨリノ御通報ニ接シ之ニ全幅の協力ヲナス爲種々考究ノ結果最善ノ案トシテ往電第七七一號ノ如キ提案ヲナシタルモノナルモ日本側ニシテ之ニ贊成セラレサル以上本件ハ「インポシブル」トサヘ思考ス從テ日本側ノ欲セラルルカ如キ情報ヲ差上クルモ左シテ誤解防止ニ寄與スル所ナキヤニ考フルモ兎ニ角御來示ノ諸點ハ篤ト研究スヘシト述ヘ館員ヨリ厚生丸ハ既ニ函館出帆漁場ニ向ヒ居ルコトニモアリ此ノ際至急米側關係方面ニ本件周知方取計ハレタキ旨要望セルモ同係官ハ米側漁業關係者ハ「ブリストル」灣方面ニ日本船ノ出漁ヲ見レハ必スヤ鯨取りナリト考フヘク事前ニ鯨取りニ非ス(鯨之)鯨取りナリト通報シ置クモ右ハ却テ疑念ヲ起サス種ヲ播ク結果トナルヲ惧ル有體ニ言ハ彼等ハ本件ニ關シテハ極メテ猜疑心深ク官憲ノ言ト雖容易ニ信セサル

モノナル點ヲ御了解アリタシ之ニ加フルニ同方面ニハ漁船ノ外定期航路船罐詰會社使用船其ノ他ノ船モ幾多航行シ居リ之等ノ總テニ本件ヲ周知セシムルコトハ事實上不可能ニ屬ス何レニスルモ篤ト研究ノ上近日何分ノ御返事スヘキ旨述ヘタル趣ナリ

1412

昭和15年6月23日  
在米国堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ブリストル湾での日本側操業時期に関する米  
国側提案を再考するよう国務省要望について

ワシントン 6月23日後発  
本省 6月24日夜着

第九四一號

往電第八八四號ニ關シ

二十一日國務省係官ノ求メニ應シ館員往訪セル處前回當方説明ノ趣旨ヲ米側關係者ニ於テ篤ト研究セル結果(イ)貴電第二七六號前段ニ付米側漁業當局ノ見解ニ依レハ鱈ハ鮭ト異リ一年ヲ通シ漁獲シ得ルモノニテ米側要望ノ如キ操業ノ一部變更ヲ爲スモ右カ甚大ナル損害ヲ日本側ニ與フヘシトハ

思ハレス又後段ニ關シテハ漁業種類ノ如何ニ拘ラス日本漁船カ現場ニ出漁スルコト其ノモノカ米漁業關係者ニ多大ノ危惧ヲ與フルモノニテ此ノ點ニ付一九三七年日本「フィシユミール」工船出漁ノ際發生セル苦キ經驗ヲ想起セサルヘカラス又(ロ)同電ニノ點ニ付テハ鱈漁業ハ鮭漁業トノ關聯ニ於テ問題ト爲シ居ルニ過キス單獨ニテ問題トナリ居ルモノニハ非サルモノナルコト御了解アリ度ク尙(ハ)米出漁船ニ關スル情報提供方御依頼ノ件ニ關シテハ米船ハ一般漁業法規及特定區域ニ對スル漁業規則ニ從フ限り漁業ニ從事シ得ルモノニシテ個別的許可ヲ受クルヲ要セサルヲ以テ實際上御申出ノ如キ情報ヲ提供シ難ク且日本側ニ於テ本件出漁ヲ豫定通り實行セラレ鮭漁業(鱈カ)ヲ正規ニ「ブリストル」灣ニ於テ操業セラルル以上如斯基情報交換ヲ爲スモ何等效果ナカルヘシトノ結論ニ達シタル次第ニシテ前回申上ケタル如ク日本側ニ於テ少クトモ六月中旬ヨリ七月末迄(八月出漁ナラハ結構ナリト附言セリ)ハ現場附近ニ於ケル操業ヲ差控ヘラルルコト以外ニハ誤解ヲ防ク方法ナキモノト存スルニ付「アラスカ」漁業ニ關シ發生ノ虞アル紛糾又ハ望マシカラサル輿論ノ醸成ヲ防止スル爲日本側ニ於テ本件ヲ再考セラ

レ米側提案ニ同意セラルル様今一應日本政府ニ取次カレ度  
キ旨述ヘタルヲ以テ館員ヨリ(イ)前段ニ關シテハ双方見解ノ  
相違モアリ右ハ専門家ニ非サレハ何レカ眞ナリトモ言ヒ難  
キモ御申越ノ點ハ兎ニ角東京ニ報告スヘキ旨述ヘ置キタル  
趣ナリ

